



Mais Brasil★

平成24年度 ブラジル通信
 9月17日(月)～9月23日(日)
 No. 3
 発行者：宮本 朋子

パラナヴァイ市との教育交流

2週間のクリチバ市での活動を終え、今週からパラナヴァイ市へと活動拠点を移しました。パラナヴァイ市は、パラナ州の北西部に位置する、人口約8万人の小さな町です。2008年に豊橋市と教育提携を結んで以来、教員間の交流を続けています。

現在、ブラジルは春ですが、今年は暖冬だったこともあり、内陸のパラナヴァイ市は、例年以上に暑い日々が続いたそうです。私が到着した日も気温が39度あり、とても蒸し暑かったです。しかし、2日後には雨が降り、気温が20度前後まで下がり、今度は肌寒くなりました。急激な温度変化に驚きましたが、ここに住んでいる人たちは、3ヶ月ぶりに降った雨に、「Gostoso!」「Delicioso!」と口々に言っていました。Gostoso (ゴストーソ) と Delicioso (デリシオーソ) という言葉は、食べ物について「おいしい」という時に使うので、なぜ雨がおいしいのかと不思議に思いましたが、快適だったり、心地が良かったりする時にも使う表現でもあるそうです。また1つ便利な表現を覚えました。



パラナ州



左から、担当のファッチマさん、教育局長、ホームステイ先のカローリーナさん

最初に、パラナヴァイ市教育局長を表敬訪問しました。今回は、パラナヴァイ市にある全初等学校を訪問し、豊橋の学校紹介や日本文化体験授業の開催、作品交流の継続、研修員の積極的な活用など、プロジェクトへの協力依頼をしました。パラナヴァイ市の人たちに、もっともっと豊橋のことを知ってもらえるよう、国際理解教育を進めていきたいと思ひます。

教育に力を入れているパラナヴァイ市では、今年、1日制の学校が4校から6校へと増えました。市が管轄している学校は、授業料から学習用具、体操服、食事代まで全て無償ですが、さらに、貧しい家庭の子どもたちが学校に通えるよう、市が家庭にお金を支払う制度がありました。父親の収入を家族の人数で割り、1人70リアル以下の家庭の場合、子ども1人あたり月30リアル(約1500円)を支払っているそうです。また、毎週火曜日には、5年生の全児童に無料で新聞を配布しています。毎回4校の学校を



H23作品交流

昨年度、ノエミア初等学校に、岩田小の手作りカレンダーが届きました



1200人の児童に配られる新聞

学校紹介の記事が載っています



毎月開かれる先生たちの研修会

紹介しており、各家庭において学校教育への関心を高めるのに役立っているそうです。岩田小は、日本の紙芝居をポルトガル語に翻訳してくれました



幼児たちの学芸発表会

6歳までの幼児による学芸発表会が行われるということで、見に行ってきました。ブラジルの就学前教育は、0歳～3歳までの保育園と、4歳～5歳までの幼稚園からなっています。パラナヴァイ市では、保育園と幼稚園が一緒になっているところが17園、幼稚園が初等学校に併設されているところが12園あります。今回は、合計29園がそれぞれ歌や踊りなどを発表してくれました。

発表のテーマは自由で、出演人数、発表時間等、制限はありません。先生たちが作った衣装を着て、音楽に合わせて踊る姿は、とてもかわいかったです。ただ、発表した園から帰ってしまうため、最後の方になると関係者くらいしか見ていないのが、残念でした。今年で2年目となる行事だそうです、お互いに発表を見あったり、保護者にも見てもらえるような会になるとよいと思いました。



先生たちが作った衣装で発表。

働きながら勉強しています！

昨年度実施した、帰国児童生徒の実態把握アンケートで、帰国者がいると答えた Adelia Rossi Arnaldi 州立学校を訪問しました。そこで、豊橋出身の2人の女の子と話をすることができました。

永井カロリーナさん（19歳：高校2年）は、日本で生まれ、岩西小、鷹丘小、東陵中で学習した経験があります。帰国後は、ポルトガル語ができなかったため、日本での中学卒業レベルの成績が認められず、16歳なのに5年生のクラスで1年間勉強したそうです。年下の子と一緒に勉強するのがとても嫌だったので、補習にも積極的に参加した結果、次の年は8年生に飛び級できたそうです。一方、今村カスミさん（17歳：高校1年）は、12歳で日本へ行き、2年半二川中で学習しました。2人の日本での生活期間は違いますが、帰国後、2人とも日本での学習が役に立ったといいます。「厳しいけれど規律ある日本の学校での勉強があったからこそ、今の自分がある」と、明るく話してくれました。現在は、働きながら、夜学校で勉強しています。言葉ができなくても、逆境に負けない強さと適応力をもった2人を、とても頼もしく思いました。

ブラジルでは、資格がないと仕事に就くのが難しいため、働きながら勉強をしている人が多くいます。また、さらなる知識や技術を身につけるため、専門学校や大学に通う大人も多いです。学校を卒業してからも勉強し続けるブラジル人の姿勢を、もっと見習わなければならないと思いました。



豊橋出身のカスミさんとカロリーナさん



またまた ぶらっとブラジルク・イ・ス♪

学校の職員室を訪問すると、昨年度はなかった機械が新しく設置されていました。ここで問題！ この機械は一体何でしょう？

- ① ATM
- ② 出勤簿
- ③ 緊急通報用無線機



答え：②（昨年度までは、出勤簿（冊子）に各自がサインをするという形でしたが、今年度より指紋検知器で出勤確認をするようになったそうです。ブラジルでは、勤務する学校が午前と午後で異なる先生が多いため、出勤をごまかす先生が増えてきたことが原因のようです。また、学校によっては、普通のコンピュータに指紋検知器を取り付けている学校もありましたよ。）

